

京都国立博物館「京都へのいざないプラン」

京都は2021年度内に文化庁の全面移転が予定されており、文化行政の中心地となる京都への期待は大きく、同地に位置する京都国立博物館の役割も重要である。

また、2019年のICOM京都大会及びラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2021年のワールド・マスターズゲームズ、2025年の大阪・関西万博と各地で国際的な行事が予定されており、多くの外国人観光客が古都・京都へ訪れることとなる。京都から日本文化の魅力を国内外に発信すべく、より開かれた持続可能な「全ての人に優しい博物館」を目指して以下のプランの実現に挑戦し、より多くの来館者を広く受け入れていきたい。

1 おいでやすおこしやす京博（来館者サービスの充実）

- （プラン①）休憩スペースの整備とミュージアムショップの強化
- （プラン②）早朝開館・夜間開館等、開館時間の柔軟な設定
- （プラン③）国際交流・連携の推進、日本文化の発信
- （プラン④）広報・ガイダンス機能の強化

2 京博さんえらいきばらはりましたな（文化財を多面的に理解するプログラムの提供）

- （プラン⑤）レプリカ・高精細映像等を活用した展示と教育普及の拡大
- （プラン⑥）誰もが楽しめる四季折々の行事等に合わせた展示及びイベントへの取組
- （プラン⑦）文化財の保存修理に関する普及・促進

3 京博の未来への投資どす（運営基盤の確保）

- （プラン⑧）スタッフの確保と研究活動の推進
- （プラン⑨）入館料の見直しの検討と寄附の拡充
- （プラン⑩）新たな展示施設等の整備

「京都へのいざないプラン」のアクションプラン

京都は2021年度内に文化庁の全面移転が予定されており、文化行政の中心地となる京都への期待は大きく、同地に位置する京都国立博物館の役割も重要である。

また、2019年のICOM京都大会及びラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2021年のワールド・マスターズゲームズ、2025年の大阪・関西万博と各地で国際的な行事が予定されており、多くの外国人観光客が古都・京都へ訪れることとなる。京都から日本文化の魅力を国内外に発信すべく、より開かれた持続可能な「全ての人に優しい博物館」を目指して以下のプランの実現に挑戦し、より多くの来館者を広く受け入れていきたい。

1 おいでやすおこしやす京博（来館者サービスの充実）

（プラン①）休憩スペースの整備とミュージアムショップの強化

- 2020年春～夏頃を目途に、カフェやお弁当の売店、休憩用のベンチを池周辺等に配置し、来館者が鑑賞後にほっとひと息できる場所を拡充する。
- 茶室を活用し、抹茶や煎茶を楽しむことができる場を提供する。
- 鑑賞後に館内の庭をゆっくり眺めることができるよう、館内おすすめ散策ルートを作成・案内する。
- 伝統産業を用いた京博オリジナルグッズの開発やサービスの提供等、京都の伝統文化を取り入れた創造的なショップづくりを目指す。
- 託児所を設け、大人がゆっくり鑑賞できるサービスを実施する。

（プラン②）早朝開館・夜間開館、開館時間の柔軟な設定

- 来館者の動向等を踏まえ、特に混雑が予想される特別展の早朝開館等を検討する。
- すでに実施している夜間開館についても、入館実績や費用対効果を検証し、開館時間を柔軟に見直す。
- 2019年度中に、外国人来館者に関する調査を実施し、その動向の把握に努める。

(プラン③) 国際交流・連携の推進、日本文化の発信

- 京博の使命、コンセプト及び専門性が共有できる複数の海外の博物館を選定し、新たに姉妹館交流を推進する。また、日本美術を中心とした海外の博物館との交流連携による特別展の企画・開催を推進する。
- 2020年度以降、ICOM 京都大会開催の中心的役割を果たす博物館として、組織的に ICOM 活動を行い、本大会を契機に京博として中心的な役割を果たすべき国際委員会等を確定し、学術的な発表や提言を行う等、ICOM コミュニティへの積極的な参画を行う。

(プラン④) 広報・ガイダンス機能の強化

- 観光激戦区である京都において、京博の存在感を示すため、名品ギャラリーや特別展の積極的な広報展開を行う。特にマスコミの共催者のない特別企画や特集展示の認知度向上を目指す。
- 2020年春頃を目途に、「旅の始まりは京博から」を目指して、無料ゾーンである南門インフォメーションのガイダンス機能を強化する。
- 京博の公式キャラクターであるトラりんを活用し、国内外の観光客を対象としたPR活動を展開する。
- 8言語のパンフレットの配布から、より多様な言語によるパンフレットの作成・提供を行う。また、SNSを活用した英語による情報発信を推進する。
- 多言語解説の導入に伴い展示スペースが圧迫され、観覧環境・費用対効果の面で生じている課題解決のため、ICTを活用した多言語解説の整理・合理化を目指す。
- 京博の位置する東山地域は京都市の「京都駅東部エリア活性化将来構想」の中で、文化芸術を基軸としたまちづくりを目指していることから、東山南部地域活性化委員会や京都市内博物館施設連絡協議会等と連携し、広報の相乗効果を図る。
- 他施設とも連携し、京都の玄関口である関西空港、伊丹空港、京都駅における広報拠点を整備する。
- 海洋プラスチック問題解決に向けて実施されている環境省の「プラスチック・スマート」キャンペーンへの参加を検討するなど、プラスチックと賢く付き合う人間活動の持続的発展に寄与する。

2 京博さんえらいきばらほりましたな（文化財を多面的に理解するプログラムの提供）

（プラン⑤）レプリカ・高精細映像等を活用した展示と教育普及の拡大

- レプリカを活用した鑑賞教育（文化財ソムリエ）やハンズオン教材であるミュージアム・カートのプログラムを随時追加していくとともに、展示に合わせた特別なワークショップ（2019年度は絵巻体験、十二単着付け実演など）を実施する。
- 没入性の高いVRコンテンツの運用に適したミュージアムラボを利用し、複数面への映像投影とVRを組み合わせた体験型コンテンツ（仮想空間の中で文化財を触る、絵画の中に入り込む、平安王朝の装束を身に付けるといったバーチャル技術ならではの鑑賞体験など）を開発する。
- 講堂において、高精細映像等を活用した取組を検討する。
- 屋外展示、建築、遺構等について、スマートフォンアプリによるAR解説を行う。屋外展示については、解説文のほか本来の位置を示す地図や写真資料等を表示し、また、建築については、建築学・建築史的観点からの深い解説や関連資料のオーバーレイ表示を行い、更に、明治古都館の往時の姿など、歴史の繋がりや驚きを感じられるコンテンツを検討する。

（プラン⑥）誰もが楽しめる四季折々の行事等に合わせた展示及びイベントへの取組

- 「旅の締めくくりは京博で」を目指し、京都のお祭りや行事に合わせた関連展示や教育普及事業を企画し、より深く京都の文化と歴史を学ぶ場とする。
- ユニバーサルデザインフォントの導入、視覚障害者を対象とした鑑賞環境の整備、イベントや講演会での手話通訳ボランティアの試行、特に混雑する展覧会での障害者や育児中の方を対象にした特別開館日の設定、バリアフリー環境の整備等、誰もが楽しむことができる博物館を目指す。
- 2020年度中に、四季折々の植栽を行い、お花見、紅葉狩り、雪景色等の観光名所となり、憩いの場となる庭園を計画的に整備する。
- 芸舞妓による春の舞、いけばなの実演、茶道・香道体験等の京都に根付いた日本の暮らしと文化の魅力を実感できるイベントを推進する。
- 研究員による講演会は勿論、落語や映画上映等を定期的実施する。また、着物で観覧デイ、スケッチアワー等来館者が主体的に楽しめるイベントの企画を検討する。
- 子供を対象としたカルタ大会等を催し、若年層が京博に親しむ機会を創出する。

(プラン⑦) 文化財の保存修理に関する普及・促進

- 2020年に文化財保存修理所開所40周年を迎えることを記念し、その成果を示すとともに文化財修理の現状を紹介する企画展を開催する。
- 上記企画展と関連し、文化財保存修理所見学ツアーを試行し、外国人を含む定期的なツアーの企画について検討する。
- 名品ギャラリー同様に、文化財修理に関する常設展示について検討する。
- 庭園内に、文化財修復の原料となる植物等を植栽し、総合的な学びの場とする。

3 プランを実現するための基盤の確保どす (運営基盤の確保)

(プラン⑧) スタッフの確保と研究活動の推進

- プランの実現のために、各プランの企画・調整・運営に当たる優秀なスタッフを確保する。
- 大前提となる展示水準の維持・向上のため、収蔵品等の一層の充実を図るとともに、研究員の研究活動を適切に評価し、推進する。
- 社寺調査等の調査活動を通じて、これまで培ってきた関係機関や文化財所有者との連携を更に推進する。
- 国立他館に比べ立ち遅れているアーカイブ機能の強化を図るためのスタッフを確保する。
- 2019年から、長時間労働の是正、柔軟な働き方がしやすい環境整備など、働き方改革を推進する。

(プラン⑨) 入館料の見直しの検討と寄附の拡充

- 複雑化している料金体系の簡素化や、本プラン実現のための基本料金の引き上げ等、入館料の見直しを検討する。なお、見直しの具体的な内容や時期は、本プランの進捗状況や国内外への周知期間等を総合的に考慮し、さらに検討する。
- 顧客の利便性を考慮して、キャッシュレス化に対応した決済方法を導入する等の取組を推進する。
- 大型寄附者等を対象にしたプレミアムツアーの実施、募金者へのパンフレットの配布等、理解者・支援者を拡充し、財政基盤を強化する。

(プラン⑩) 新たな展示施設等の整備

- プラン実現のためには、常設の展示施設と収蔵スペースが欠かせないことから、多目的な用途に用いることのできる明治古都館の改修を目指す一方で、文化庁の京都移転に伴う機能強化を視野に入れつつ、敷地内外も含めた新たな中規模展示・収蔵施設の確保を検討する。
- 文化財が直面している保存と活用による課題について、多くの来館者の理解を促進するため、老朽化している文化財保存修理所を再整備し、見学ルートを設定した施設とすることを旨とする。
- 老朽化し、資料収蔵量が限界をむかえている資料棟機能を見直し、他機関とも連携できる公開型のアーカイブズの整備を目指す。